

子供の夜尿症の診療ガイドラインがこの夏、12年ぶりに改定された。積極的に治療する場合、尿の量を減らす抗利尿ホルモン薬や排尿を知らせるアラーム装置の選択をまず勧められているのが特徴だ。子供が小学生になってもお漏らしの癖が抜けない場合には、我慢せずに早めに受診することが重要という。

## ガイドライン12年ぶり改定

小学校5年生のA君は、所属するサッカークラブの初合宿を前に不安があった。週に1、2回はお漏らしをするからだ。家族以外誰も知らない。両親がA君を連れて近くの小児科を訪ねたところ、生活習慣のアドバイスの後に「薬かアラームを使うといいかもしれませんが」といわれた。

夜尿症は腎臓でできる尿の量が多すぎるか、尿をほろごうにためられないことが直接の原因だ。夜間に起きられないためにお漏らしをしてしまう。小中学生の推定患者数は全国で約78万人。このうち約12万人が医療機関に足を運び、約4万人が治療を受けているとみられる。

治療の基本は食事や睡眠など規則正しい生活をすること、夜間の水分摂取は控える、寝る前には必ずトイレに行くといった行動療法だ。日本夜尿症学会理事長の大友義之・順天堂大学練馬病院先任准教授は「それでも8〜9割は改善しないので、薬やアラームの出番になる」と話す。

これまでは、ぼうごうに尿をためる働きを促す抗コリン薬と、尿意で目を覚まさせるなどの働きがある抗

# 夜尿症 我慢せず受診

夜尿症の診療の流れ



(注)日本夜尿症学会診療ガイドラインから作成

## 抗利尿ホルモン薬 尿量の多い人向き アラーム装置 「荒療治」自己流禁物

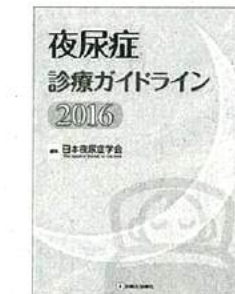
うつ薬がまず使われた。効果が弱い、作用メカニズムがはっきりしないなどの問題があり、新ガイドラインでは、最初に選択すべきではないと明示した。新ガイドラインで勧める

抗利尿ホルモン薬「デスモプレシン」は尿量が多いタイプに向く。腎臓での水分の再吸収を促し、尿量を減らす。発売当初は鼻からスプレーで成分を吸収させる方式で使いにくく、なかなか

か普及しなかった。2012年に経口薬が保険適用になり、使いやすくなった。もう1つのアラーム装置は、ぼうごうの容量が少ないタイプに向いている。下着にセンサーをつけ、お漏

らしの水分を検知すると、枕元でブザーが鳴って患者を起こすことを繰り返す「荒療治」だ。海外では以前から使われていたが、国内の評価は必ずしも高くなかったという。

アラームの効果については、自治医科大学とちぎ子ども医療センターの中井秀郎教授は「起こされることから使われていたが、尿量が増えていくことが経験的に分かってきた」と



▼おねしょと夜尿症の違い おねしょは幼児期に排尿に関わる機能が未熟なため、夜寝ている間にお漏らしをする場合をいう。成長に伴って大部分は自然に治る。一方、夜尿症は小学校入学前後の5〜6歳を過ぎても月に数回以上お漏らしをする場合を指し、病気として治療の対象となる。こくまれに成人まで続く症例もある。

話す。装置は医療機器ではなく、インターネット通販でも買えるが、医師の指導を受ける必要がある。自己流は禁物だ。

また患者の家族としては、受診先が小児科なのか泌尿器科なのか迷うところだ。自治医科大学の中井教授は「どちらかといえば、小児科医は子供の臓器の未発達な点に着目し、泌尿器科医は臓器の機能不全に着目しがちだ」という。ガイドラインは両者の認識のずれを補い、受診先がどちらでも標準的な診療を可能にする狙いもある。

他人には隠したいため、夜尿症に関する情報は入手にくい。おねしょ卒業「プロジェクト」のようなネットのコンテンツは役に立つ。専門医が分かりやすく解説しているの、参考にするといいたい。

日本では最初に診療ガイドラインができたのは04年。当時は学術的に信頼できる証拠は少なく、きちんと臨床研究もしていなかったとされる。順天堂の大友先

任准教授は「学会としても治療の順番や治療を選ぶ道筋は示せていなかった」と振り返る。

ため、病態や治療法に精通した地域の医師はそれほど多くはない。日本夜尿症学会前理事長の金子一成・関西医科大学教授は「専門医でなくても適切な診療ができるよう、ガイドラインを改定した」とセミナーで話した。

小学校高学年になってもお漏らしが続く、意を決して受診しても「もうちょっと様子を見てみましょう」とだけいわれ、結局は治らないケースは後を絶たないという。子供は自信喪失に陥り、いじめや不登校などの原因にもなりかねない。

## ガイドライン本、購入広がる 専門医以外も治療に活用

6月に発売された診療ガイドラインの本とそのポケット判は、一時品切れになるほどの売れ行きだったという。出版社では「想定通り、地域のお医者さんが購入しているようだ」と見ており、診療の改善につながることを期待される。

(池辺豊)